



食用昆虫科学研究会

Edible Insect Science Meeting “e-ism”



[F & Q]

研究会の目的は？

研究を通じて昆虫食の価値を見出し、社会を豊かにする昆虫食のあり方を提案することです。

活動内容は？

月一回のミーティングに加え、論文や書籍の執筆や寄稿、昆虫食イベントの開催などです。

昆虫食が食料問題を解決するって本当？

高い栄養価は古くから知られており、近年の研究で養殖時の飼料効率がよく、温室効果ガス排出も少ないことが明らかになったので、既存の家畜を代替して環境負荷を軽減できると期待されています。また、余剰バイオマスの処理など、多様な機能利用も検討されています。

なら何故普及しないの？

昆虫に対するマイナスのイメージが先行してしまい、美しく見せる調理法の開発やイメージを払拭する普及活動が必要です。また、食料生産として利用するにしても、すべての昆虫が優れているわけではないため、適切な昆虫種の選定が必要になります。このように、昆虫は他の食品よりも知見が圧倒的に少ないため、今後さらなる研究の進展が望まれます。

[論文・学会発表]

2011.3.27 応用動物昆虫学会

「昆虫食研究への新しいアプローチ方法の提案」

2013.12 食品衛生学雑誌 第54巻 第6号 p410-414

「福島県産イナゴの放射性セシウム量および福島県のイナゴ食文化の存続可能性」

2014.7.12 日本災害食学会

「長期災害時における食用昆虫を用いた非常食の有効性」

2014.8.20~22 日本栄養改善学会学術総会

「長寿日本一となった長野県の食文化に学ぶ昆虫食」

2014.11.14~15 国立病院総合医学会

「長寿地域となった長野県の昆虫食文化から未来の食材を考える」

2015.5.14 生物科学 Volume 66, No.3 p151-163

「持続可能な社会における昆虫食の役割とその普及活動」

2015.4.1 日本災害食学会誌 Volume2, No.1 p49-53

「被災生活の長期化に備えた災害食のための食用昆虫に関する意識調査」

2015.9.25~26 日本栄養改善学会学術総会

「未来の食材としての食用昆虫に関する意識調査」

[著作]

2012.4.14 「昆虫食入門」 平凡社新書

[受賞]

サイエンスアゴラ 2013 「サイエンスアゴラ賞」(出展団体部門第一位) その他講演、イベント、寄稿、取材対応やプチ・ジビエ活動(セミ会・バッタ会) を毎年実施しています。詳しくは HP を御覧ください。

[寄付のお願い]

現在の活動費はメンバーの会費で賄われています。昆虫食研究を進めていくため、寄付をいただけますと幸いです。

NPO 法人食用昆虫科学研究会

三菱東京 UFJ 銀行 多摩支店 245

普通預金 0322897

e-mail : eism2011.japan@gmail.com

HP : <http://e-ism.jimdo.com/>

Twitter : e_ism2015

各種講演、取材承ります。vv

